

今後も

男女共同参画・ダイバーシティ推進のため

オール鹿大で

教職員・学生の幸福度アップに繋がる取組を進めていきます。

女性比率に係る主な目標値及び現状（令和3年10月1日現在値）

項目	目標値	現状
女性研究者在籍割合	23.0%	21.7%
上位職（教授・准教授）に占める女性研究者割合	15.0%	13.2%
女性研究者採用割合	30.0%	27.7%
学長・理事（非常勤含む）、副学長に占める女性割合	20.0%	18.2%
意思決定機関等に占める女性割合	20.0%	11.5%
・教育研究評議会	20.0%	7.4%
・学長補佐		11.8%
・部局長		13.3%

目標達成時期：令和7年度

鹿児島大学男女共同参画推進センターにおける主な取組

- ・研究支援員制度
  - ・保育支援制度
  - ・メンター制度
  - ・ニューズレター発行
  - ・附属図書館連携「男女共同参画展」
  - ・後期共通教育科目開設「身の周りの男女共同参画」
  - ・出前授業開設「研究者への道」「理系の進路を考えよう」
  - ・文部科学省補助事業による取組「WISH PLUS」
  - ・女性リーダー育成セミナー
  - ・学長と女性教職員との懇談会
- など

【問い合わせ先】鹿児島大学男女共同参画推進センター

099(2801)3012



## 男女共同参画・

## ダイバーシティ推進のための

鹿児島大学の取組を紹介します。

2021年度  
ダイジェスト版



一人ひとりが伸びやかに、  
自分らしく輝くために





# 男女共同参画・ダイバーシティ推進のための鹿児島大学の取組

～2021年度ダイジェスト版（2022年3月配信）～



## Topic①

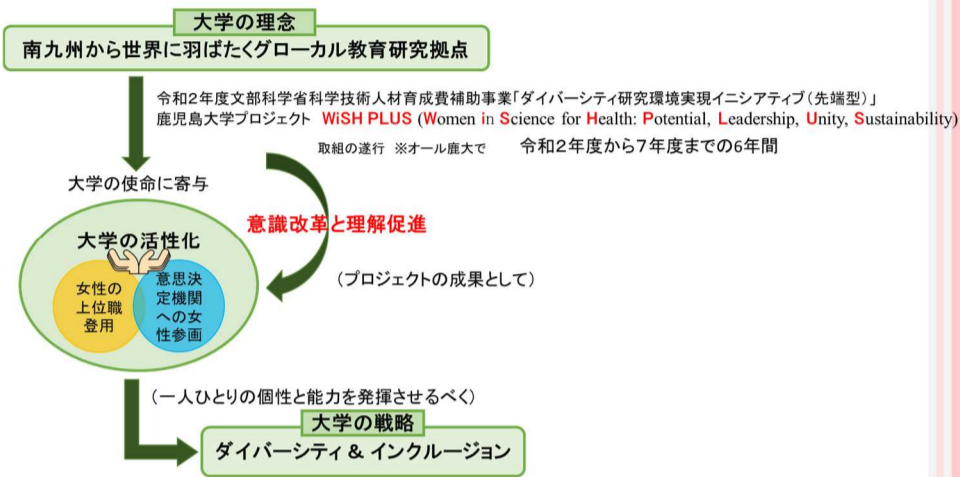


### 「ダイバーシティ&インクルージョン」に係るトップメッセージを配信しました。

2021年9月

鹿児島大学のプロジェクト「WISH PLUS」にオール鹿大で取り組むことで、女性の上位職、意思決定機関への女性の参画を増やし、大学の活性化を図ります。

鹿児島大学長として本学の一人ひとりの個性と能力を發揮させるべく、ダイバーシティ&インクルージョンを本学の経営戦略として位置付け、強化して参ります。



実際の動画メッセージはこちら

## Topic②



### 学長と女性教職員との懇談会を開催しました。

2021年11月

「意思決定機関への女性の参画について」本学の現状から見た意見交換」として、学長と女性研究者8名、事務系女性管理職5名との懇談会を開催しました。

参加者からは、女性がステップアップしやすい仕組み作りや人事評価の見直しについての提案、女性リーダー育成機会の提供やライフイベント期のサポート充実の必要性について、更に海外のような柔軟な働き方や研究専念できる環境の整備等について意見が出され、個々の事情に応じた切れ目のない支援の必要性について意見が出されました。



はじめに、佐野輝学長から、女性教職員からの意見を聴く貴重な場として捉えている旨の挨拶があり、執行部における女性参画促進について紹介がありました。



最後に、男女共同参画推進センター長である越塩俊介総務担当理事から、女性の参画を促進させ次のステージに繋げる貴重な機会となったこと、教職員の幸福度アップには女性の参画や多様性は必須であり、今回の意見等を踏まえて個別支援と全体対応を充実させていくとの閉会挨拶があり、意思決定機関への女性参画、ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを一層推進する有用な機会となりました。



# 男女共同参画・ダイバーシティ推進のための鹿児島大学の取組

～2021年度ダイジェスト版（2022年3月配信）～



## Topic③



### 教職員のライフワークバランスを応援する鹿児島大学サポート宣言を制定しました。

2021年12月

#### 教職員のライフワークバランスを応援する鹿児島大学サポート宣言

1. 公的な会議は、原則として17時までに終了します。
2. 出産・育児・介護等に携わる者へは、特に勤務形態(テレワーク等)・勤務時間の配慮を行います。
3. ライフワークバランスに関する懇談会や意見交換会を定期的を開催し、現場の声に耳を傾けます。

※本サポート宣言は、各学系が策定した「学系等方針」に基づきボトムアップ型で作成したものです。

本サポート宣言は、鹿児島大学男女共同参画行動計画に基づき策定された「学系等における男女共同参画推進に係る方針等(学系等方針)」を参考に、ボトムアップ型で大学全体としての取組を宣言したものです。

サポート宣言の中で使用されている「ライフワークバランス」は、「ワーク・ライフ・バランス」と比べ、よりライフを重視したワードで国際的な潮流となっており、「ライフワークバランス」を取り入れることで教職員のライフを重視する大学であることを表明したものです。

項目2.については、ライフワークバランスの充実を目的としたテレワークを令和4年3月から本格導入します。

## Topic④



### 大学の意思決定機関である「教育研究評議会」に女性評議員枠を設定しました。

2021年12月

大学の意思決定機関である「教育研究評議会」への女性参画率を向上させ、より多様な視点に基づく大学運営を可能とするため、教育研究評議会に女性評議員枠を設定しました。

具体的には、教育研究評議会の組織として、学長が指名する女性の学長補佐を女性評議員枠として新たに設定するため規則の一部改正を行い、令和4年度から女性評議員枠を導入します。

国立大学全体の女性比率目標値

大学の意思決定機関等は2025年までに20%以上

(令和3年：国立大学全体値12.5%)

鹿児島大学の教育研究評議会女性比率：7.4%(令和3年度値)

全国の国立大学において教育研究評議会に女性評議員枠を設定している大学はほとんどなく、他大学に先行した本学の大きなポジティブ・アクションとなりました。

今後、教育研究評議会の女性評議員候補となる学長補佐を選出する際にジェンダーバランスを考慮することにも繋がります。今回のポジティブ・アクションが大学の活性化に大いに繋がると確信しています。